

## 西上州：金鶏山・筆頭岩

- ◆日程 2023年6月6日(火)
- ◆メンバー L：TY、IZ
- ◆天候 晴れ時々曇り

アプローチを安全に素早く通過できるようになりたい、ロープワークを頭でなく体が動くよう身に着きたい、そしていつか谷川の本チャンに行きたい。少しずつグレードアップしてアルプスの岩イワしたバリエーションに行きたい。そんな「アルパインやりたい」わたしとTYさんのニーズがぴたりと合い、有給や代休を駆使して平日山行が実現した。

県道沿いに現れた雑草繁る立派な石段(往年の登山口)から入山。落ち葉が重厚な層をなしている。岩稜の末端はスラブとも違う溶岩が固まったような凸凹を持つ絶妙な斜面。手がかり足がかりは豊富で、ぐいぐい登っていく。ほどなく金鶏山山頂。表妙義や4月に登った鍬柄岳の尖った岩を見晴らす。方向を見定めながら、稜線歩きや斜面のトラバースで進んでいく。

筆頭岩の下部はボルトが豊富で偵察の未登れそうな東端のルートを選ぶ。念のためゼロピンをとりTYさんリードで取付くも苦戦し、横移動した先で「落ちる」の一言の後、飛び落ちてきた。ビレイヤーIZは両手を引きしやがんで最大限ロープを張るが、TYさんは見事に転がっている岩を避け平らな土の面にきちんと両足裏から着地していた。特に負傷部位もなく再開、5mほど登りふと「ここは1ピッチ目ではなく、懸垂下降を予定していた終了点の真下なのでは？」と思い至り、ヤマレコのログを確認するとどうも的中らしい(この難易度がⅢ級のはずはないと思っていたようで下から見ても同感だった)。懸垂で戻ってきて、岩の基部を改めて西端に向かうとこれぞ!という入門者フレンドリーな階段状の岩が出迎えてくれた。

奇数ピッチTY、偶数ピッチIZでつるべで登る。ロープの流れを意識して中間支点をとる(滑車付きのカラビナが役に立った)、ピッチを切ったら支点構築～ロープアップ～セカンドのビレイを10分以内でという課題、セカンドが上がってきたらすかさずボディビレイに切り替えクライミング自体に十分に時間を当てる・・・机上講習では実感できない、アルパインの流れとリズムがよくわかった。ナイフリッジをこわごわ渡り、たどってきた薄い板状の岩稜を振り返り感慨にふけり、6ピッチで筆頭岩頂上に達した。懸垂2回で東端の基部へ。

日没にはまだ間がありリードとフォローの担当箇所を交代しもう一周登って降りることも考えたが、金鶏山通過での神経消耗もあり集中力低下で危ないと判断、予定通り下山した。ザレて滑る斜面、すぐ下の県道への落石に注意し道路に飛び出し、充実の一日は無事終了した。

いつか本チャンに行きたい、登攀力なら努力で鍛えられる、でも登攀力だけではだめだろう、何が足りない?気づきと解決への糸口をくれたTYさんに感謝です。裏妙義の木戸壁に二子山の中央稜と、まだまだアイデアがあるよう。みなさん一緒に行きましょう。(記：IZ)

CT：県道わきから入山 8:20 - 金鶏山 9:20 - 筆頭岩基部 11:23/12:30 - 筆頭岩頂上 14:45 - (懸垂×2) 筆頭岩基部 15:35 - 県道わきへ下山 16:45

